

紫外線ランプを正しく安全にご使用いただくために

安全上の注意

警告



●点灯中のランプは絶対に直接または間接に肉眼で見ないでください。目の痛みや視力障害の原因となります。



●紫外線（殺菌線）を皮膚に直接または間接にあてないでください。皮膚の炎症や日焼けをおこす原因となります。



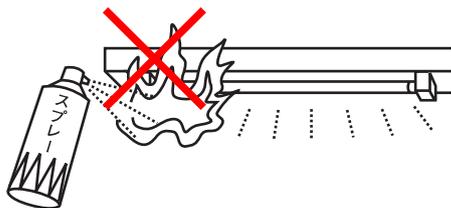
●取り付け、取り外しや清掃のときは必ず電源を切ってください。感電、目の痛み、視力障害や皮膚の炎症の原因となります。



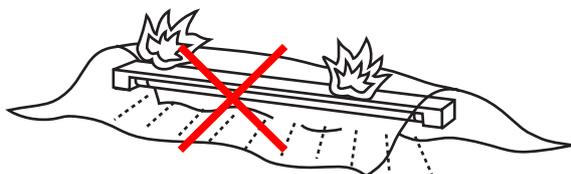
●オゾン発生ランプのオゾンは、人体に害がありますので、換気装置を取り付けてください。呼吸器官の炎症を起こす原因となります。

注意

- 落としたり、ものをぶついたり、荷重をかけたり、無理な力を加えたり、キズをつけたりしないでください。破損した場合、ガラス破片が飛散し、ケガの原因となります。
- 引火する危険性の雰囲気（ガソリン、可燃性スプレー、シンナー、ラッカー、粉塵など）で使用しないでください。火災や爆発の原因となります。



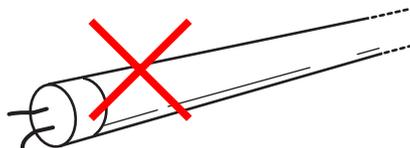
- ランプに適合した安定器、ソケット、コネクタを必ず使用してください。安定器やソケット、コネクタの過熱、発煙の原因となります。また、ランプ不点灯、短寿命、チラツキなどの原因となります。
- 点灯中や消灯直後は、ランプが熱いので手や肌などを触れないでください。ヤケドの原因となります。
- 使用済のランプは割らずに廃棄してください。ランプを割るとガラス破片が飛散し、ケガの原因となります。
- 雨や水滴のかかる状態や湿度の高いところでは使用しないでください。漏電や破損の原因となります。
- ランプ取付時は、ソケット、コネクタおよびランプホルダーに確実に取り付けてください。ランプが落下し、破損した場合、ガラス破片が飛散し、ケガの原因となります。また、接触不良の場合は、過熱、発煙の原因となります。
- 紙や布などでおおったり、燃えやすいものに近づけないでください。火災の原因となります。



- 酸などの腐食性雰囲気のところでは使用しないでください。漏電や落下の原因となることがあります。
- 振動や衝撃のあるところでは使用しないでください。落下、破損によるケガ、ランプ短寿命の原因となります。
- ランプに塗料などを塗らないでください。ランプが過熱し、破損の原因となることがあります。



- 粉塵の多いところでは使用しないでください。接触不良の原因となることがあります。
- 退色を避けたい場合には使用しないでください。被照射物が紫外線により退色、劣化の原因となることがあります。
- ランプ口金のピンが曲がったり、折れたりしたランプは使用しないでください。また、ピンの切断もしないでください。接触不良による過熱、発煙の原因となることがあります。



- 植物のそばでは使用しないでください。植物育成障害の原因となることがあります。
- ランプは素手でさわらないでください。紫外線出力が低下するばかりでなく、ガラス管の失透、破損の原因となることがあります。

ご 使 用 上 の 注 意

<ul style="list-style-type: none"> ●使用温度範囲はランプに適合した温度範囲で使用してください。周囲温度が低温または高温の場合、ランプ不点灯やチラツキの原因となることがあります。 ●電源電圧が低い場合（定格入力電圧の94%より低い）はランプが点灯しなかったり、短寿命の原因となります。 ●人感センサーなどのスイッチで点滅を頻繁に繰り返す場合は、ランプ寿命が短くなります。（フィラメントトランスとの組み合わせで使用してください。） ●強い風があたる場所は避けてください。風のアたる部分は、黒化や斑点現象が発生しやすくなります。また、エアコンの風など冷風が直接あたるとチラツキの原因となることがあります。 ●ランプの取り付け、取り外しや器具清掃のときは素 	<p>手でさわらないでください。万一汚れた場合はアルコールを湿した布でよく拭きとってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ランプは、常にきれいに保ってください。紫外線出力が低下します。 ●初めて点灯したとき、電極付近が黒くなることがありますが、しばらく点灯しておくで消えます。 ●寿命末期のランプを長時間通電するとフィラメント付近が高温となるため。周囲の造営材へ影響を及ぼす原因となります。不点灯またはランプ端部が著しく黒化した寿命末期のランプは早めに交換してください。また、2灯用安定器をご使用の場合は2本同時に交換してください。 ●電源波形の歪みや変動があるときは、ランプにチラツキが発生する場合があります。
---	---

ソケット・コネクタを正しく安全にご使用いただくために

安 全 上 の 注 意

 警 告	
 <ul style="list-style-type: none"> ●取付工事や清掃のときは、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。 ●万一、煙がでたり、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合はすぐに電源を切ってください。そのまま使用すると、感電、火災の原因となります。また、異常状態がおさまったことを確認してから工事店、電器店に修理を依頼してください。 	 <ul style="list-style-type: none"> ●ソケット、コネクタの分解、改造は絶対に行わないでください。故障、ランプ落下によるケガ、感電、火災の原因となります。  <ul style="list-style-type: none"> ●ソケット、コネクタの隙間に金属類や燃えやすいものなどを差し込まないでください。感電、火災の原因となります。 ●傷んだり変形したソケット、コネクタは使用しないでください。感電、火災の原因となります。
 注 意	
<ul style="list-style-type: none"> ●引火する危険性の雰囲気（ガソリン、可燃性スプレー、シンナー、ラッカーなど）で使用しないでください。火災、爆発の原因となることがあります。 ●ランプはソケット、コネクタに確実に取り付けてください。差し込みが不十分な場合、接触不良でランプ不点灯や短寿命の原因となるだけでなく、ソケット、コネクタが過熱、焼損することがあります。 ●安定器定格二次電圧に適合したソケット、コネクタを使用してください。漏電、感電、火災の原因となることがあります。 ●湿気や水気のあるところでは使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。 ●清掃の際は、ソケット、コネクタに水や薬品がかからないように注意してください。故障、感電、火災 	<p>の原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●振動や衝撃のあるところでは使用しないでください。ランプの落下によるケガ、故障、火災の原因となることがあります。 ●腐食性雰囲気のところでは使用しないでください。腐食によるランプの落下の原因となることがあります。 ●粉塵の多いところでは使用しないでください。火災の原因となることがあります。 ●屋外では使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。 ●塗料などを塗らないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。

ご 使 用 上 の 注 意

<ul style="list-style-type: none"> ●清掃する際は、シンナーやベンジンなどの溶剤を使用しないでください。水または中性洗剤を湿らした布でよく絞ってから拭いてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●電線はランプから 50mm 以上離して配線してください。ランプからの熱で電線が変質する原因となることがあります。
--	---

安定器を正しく安全にご使用いただくために

安全上の注意

警告



- 取付工事のときは、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- 安定器の二次側には高電圧が発生しますので、活線作業をしないでください。活線作業をすると感電の原因となります。
- 万一、煙がでたり、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合はすぐに電源を切ってください。そのまま使用すると、感電、火災の原因となります。また、異常状態がおさまったことを確認してから工事店、電器店に修理を依頼してください。



- 安定器の構造を変更したり、ケースを開けたりしないでください。故障の原因となるばかりでなく、感電、漏電、火災の原因となります。

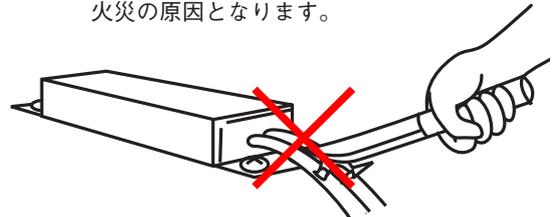


- 電線を接続する場合、ゆるみ、抜けのないように確実に接続してください。接続が不完全ですと、漏電、地絡、感電、接続部の焼損、火災の原因となります。



- 安定器の二次側を器具に接続しないままで放置しないでください。施工途中でやむを得ず二次側に器具接続をしない場合、切断した電線を1本1本に分けて確実に絶縁処理をしてください。一括して絶縁処理をすると電線切断面で放電が起こり、電線が焼損し火災の原因となります。

- 電線、あるいは絶縁処理部に刃物などによるキズをつけないでください。キズがついた状態で使用すると、絶縁破壊により漏電、感電、火災の原因となります。



- 安定器の二次側に中間ジョイントとして、コンセントなどを使用しないでください。絶縁破壊により火災の原因となります。

注意

- 取付工事は、必ず電気工事店に依頼してください。一般の方の工事は、法で禁じられています。素人工事をおこないますと、漏電、感電、火災の原因となることがあります。
- 紙や布などを安定器の上に置いたり、かぶせたりしないでください。安定器の温度が高くなり、保護機能が動作したり、紙や布が焦げて火災の原因となることがあります。

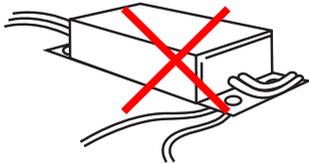


- 露の付着や水分を避けてください。絶縁低下、漏電、感電、短寿命の原因となることがあります。
- 電源電圧は、定格入力電圧の±6%以内で使用してください。ランプの短寿命、不点灯、チラツキ、安定器の故障、発煙、発火の原因となることがあります。
- 長期間使用しない場合は、部屋の湿気により絶縁が悪くなることがありますので、部屋の換気をおこなうか定期的に通电してください。絶縁が悪くなりますと漏電、感電の原因となることがあります。
- 標準使用条件で8～10年経過した安定器は、絶縁性能が低下していますので使用しないでください。そのまま使用しますと絶縁劣化が進行し、異常過熱、焼損、発煙、発火の原因となることがあります。安定器の交換をおすすめします。
- 結線は、安定器に表示してある接続図どおりにおこなってください。間違えて接続されますとランプの不点灯、安定器の焼損の原因となることがあります。

- 誤って落下させた安定器は使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく発煙、発火の原因となることがあります。
- 引火する危険性の雰囲気（ガソリン、可燃性スプレー、シンナー、ラッカーなど）では使用しないでください。火災、爆発の原因となることがあります。
- 粉塵の多いところでは、使用しないでください。発煙、発火の原因となることがあります。
- 腐食性雰囲気のところでは使用しないでください。故障の原因となることがあります。
- 振動や衝撃のあるところでは使用しないでください。故障、落下によるケガ、火災の原因となることがあります。
- 清掃の際は、水や薬品がかからないように注意してください。故障、感電、火災の原因となることがあります。
- 二次電圧が300Vを超える安定器は、絶縁型変圧器を除きランプを外したとき電源回路が切れるインターロック機構が必要ですので、安定器に表示してある接続図どおりインターロック配線をおこなってください。ランプ交換の際、感電の原因となることがあります。（電気設備技術基準解釈第206条）
- 安定器の二次側口出線を延長する場合、接続箇所は絶縁ビニールテープなどで確実に絶縁処理をおこなってください。また、接続する電線は電気設備技術基準にしたがってください。絶縁が不十分ですと漏電、感電、地絡の原因となることがあります。
- 造営材に取り付ける場合は、造営材から10mm以上離して取り付けてください。発煙、発火の原因となることがあります。（電気設備技術基準解釈第206条）

⚠ 注意

- 隠蔽場所（天井裏など）に取り付ける場合は、電気設備技術基準により、火災の危険性を防止し、定期点検、異常などの処置をおこなうため、更に耐火性の箱に収めるとともに、容易に点検できるように施設してください。
- 電線を安定器ケースの端部に触れないよう余裕をもたせてください。ケースの端部で絶縁被覆を傷つけ、絶縁破壊により漏電、感電の原因となることがあります。



- 電線の接続点や安定器の口出線には張力を加えないでください。ランプの不点灯、漏電、感電、火災の原因

となることがあります。

- 口出線を持って安定器を運搬しないでください。ランプの不点灯、漏電、感電、火災の原因となることがあります。
- アース工事がが必要です。電気設備技術基準にしたがって確実にこなってください。アースが不完全ですと、感電の原因となることがあります。
- 取り付け後、絶縁抵抗を測定してください。安定器単体（電源一括と非充電金属部間）の絶縁抵抗が 30MΩ 未満、電路については電気設備技術基準省令第 58 条の規定値未満の場合は、漏電、感電、火災原因となることがありますので絶縁を修復させた後、通電してください。
- その他、工事上の制約がありますので、安定器の取り付けに際しては電気設備技術基準に準じて施工してください。

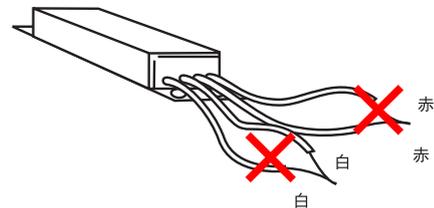
ご使用上の注意

⚠ 注意

- 使用するランプに適合した安定器を使用してください。
- 周囲温度は 5℃ ～ 40℃ の範囲で使用してください。周囲温度が高い場合や他の熱源から影響を受ける場合には、安定器が短寿命となったり、内蔵している保護機能が動作したりします。また、周囲温度 40℃ 以下でも同様に安定器短寿命の恐れがありますので、次の事項を守ってください。
- ① 2 台以上並べて設置する場合には、相互の熱の影響を受けますので電磁安定器は 100mm 以上（電子安定器は 50mm 以上）間隔を空けて通風に注意してください。
- ② 箱の中に収納する場合は、容積を十分大きくとり、かつ換気をして安定器が過熱しないように注意してください。（UAA2 シリーズは必ず箱内に収納して使用してください）
- ③ 光源の上部などに取り付ける場合は、光源の熱影響を受けますので熱遮蔽の仕切りをするとともに十分な間隔をとってください。
- ④ 狭く周囲に空気の対流がなく熱がこもりやすい場所では、強制換気などをおこなって安定器が過熱しないように注意してください。
- ⑤ 周囲温度が低い場合、電子安定器は正常動作しない場合がありますのでご注意ください。
- 安定器とランプ（ソケット）との間の二次側配線の長さは次の事項を守ってください。不点灯、ランプ短寿命、チラツキの原因となることがあります。
- ① 電子安定器は配線容量による安定器への影響を考慮し、3m 以内にしてください。
- ② 電磁安定器は、電圧降下によるランプへの影響を考慮し、20m 以内にしてください。
- 電磁安定器は鉄心の振動で若干のうなり音が発生します。静かさを要求される場所や多数の安定器を設置する場所では、騒音に配慮して施工してください。なお、

騒音対策としては、次の方法があります。

- ① 防振ゴムなどを使用し、安定器からの振動が伝わらないように取り付け。
 - ② 安定器の設置場所を変える。
- 二次側配線の線間を短絡すると安定器故障の原因となります。



- 電磁安定器は電源周波数 50Hz 用と 60Hz 用があります。電源周波数に適合した安定器を使用してください。間違えて使用しますと安定器の故障やランプ短寿命の原因となることがあります。周波数共用タイプの場合は、安定器に表示してある接続図どおりにおこなってください。
- 施工方法、使用方法によっては、電波障害が生じることがありますので次の事項を守ってください。
- ① 安定器の入力側、二次側配線と通信ケーブルなどは、近接しないように施工してください。
- ② 無負荷状態、ランプ不点灯および点滅などの状態での放置はしないでください。
- ③ 安定器およびその配線と電子機器とをあまり近づけないようにしてください。
- ④ 電子安定器を使用した器具に接近してワイヤレスマイクを使用すると、雑音が入り正常に動作しない場合があります。また、赤外線リモコン機器や盗難防止センサーを近接して使用しますと機器が正常に動作しない場合があります。

水殺菌装置を正しく安全にご使用いただくために

安全上の注意

警告



●点灯中のランプは絶対に直接又は間接に肉眼で見ないでください。ランプ点灯確認の際は、必ず保護メガネをかけ本体キャップよりおこなってください。眼の痛みや視力障害の原因となります。



●紫外線（殺菌線）を皮膚に直接又は間接にあてないでください。皮膚の炎症や日焼けをおこす原因となります。



●取付工事やランプ交換、清掃のときは、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。

●万一、煙がでたり、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合はすぐに電源を切ってください。そのまま使用すると、感電、火災の原因となります。また、異常状態がおさまったことを確認してから工事店、電器店に修理を依頼してください。



●取付工事は、取扱説明書にしたがって確実にしておこなってください。感電、火災、ケガの原因となります。

●装置の取り付けは、装置の質量に耐えるところに取扱説明書にしたがって確実にしておこなってください。取り付けに不備があると落下し、感電、ケガの原因となります。



●電源接続の際は、取扱説明書にしたがって確実にしておこなってください。接続が不完全ですと、感電、火災の原因となります。

●装置の分解、改造は絶対に行わないでください。故障、落下、感電、火災の原因となります。

●オゾン発生ランプのオゾンは、人体に害がありますので、人がいるときはランプを点灯しないでください。呼吸器官の炎症を起こす原因となります。

●紙や布や断熱材などでおおったり、燃えやすいものに近づけないでください。故障、火災の原因となります。

●装置の隙間に金属類や燃えやすいものを差し込まないでください。感電、火災の原因となります。

●制御盤は不安定な場所では使用しないでください。転倒によるケガ、火災の原因となります。

●アース工事は、電気設備技術基準にしたがって確実にしておこなってください。アースが不完全ですと、感電の原因となります。



注意

●電源電圧は、定格入力電圧の±6%以内で使用してください。ランプの短寿命、不点灯、チラツキ、安定器の故障、火災の原因となることがあります。

●屋外では使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。

●湿気や水気のあるところでは使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。

●引火する危険性の雰囲気（ガソリン、可燃性スプレー、シンナー、ラッカーなど）で使用しないでください。火災、爆発の原因となることがあります。

●振動や衝撃のあるところでは使用しないでください。故障、落下によるケガ、火災の原因となることがあります。

●腐食性雰囲気のところでは使用しないでください。故障、落下の原因となることがあります。

ご使用上の注意

●装置の取付工事は、必ず専門業者に依頼してください。

●ランプは素手でさわらないでください。万一汚れた場合はアルコールを湿した布でよく拭きとってください。

●ランプ交換時はランプソケットをはずして、ランプを上部へ静かに引き抜いて下さい。

●装置は縦形に取り付けてください。

●装置に適合したランプ、安定器を必ず使用してください。装置の過熱、発煙の原因となることがあります。

●装置の性能を維持するために定期的に保護管の清掃や装置の点検をしてください。

表面殺菌装置を正しく安全にご使用いただくために

安全上の注意

警告

<ul style="list-style-type: none">  ●点灯中のランプは絶対に直接又は間接に肉眼で見ないでください。ランプ点灯確認の際は、必ず保護メガネをかけ本体キャップよりおこなってください。眼の痛みや視力障害の原因となります。  ●紫外線（殺菌線）を皮膚に直接又は間接にあてないでください。皮膚の炎症や日焼けをおこす原因となります。  ●取付工事やランプ交換、清掃のときは、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。 ●万一、煙がでたり、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合はすぐに電源を切ってください。そのまま使用すると、感電、火災の原因となります。また、異常状態がおさまったことを確認してから工事店、電器店に修理を依頼してください。  ●取付工事は、取扱説明書にしたがって確実にこなってください。感電、火災、ケガの原因となります。 ●装置の取り付けは、装置の質量に耐えるところに取扱説明書にしたがって確実にこなしてください。取り付けに不備があると落下し、感電、ケガの原因となります。 	<ul style="list-style-type: none">  ●電源接続の際は、取扱説明書にしたがって確実にこなってください。接続が不完全ですと、感電、火災の原因となります。  ●装置の分解、改造は絶対にしないでください。故障、落下、感電、火災の原因となります。 ●オゾン発生ランプのオゾンは、人体に害がありますので、人がいるときはランプを点灯しないでください。呼吸器官の炎症を起こす原因となります。 ●紙や布や断熱材などでおおったり、燃えやすいものに近づけないでください。故障、火災の原因となります。 ●装置の隙間に金属類や燃えやすいものなどを差し込まないでください。感電、火災の原因となります。 ●制御盤は不安定な場所では使用しないでください。転倒によるケガ、火災の原因となります。  ●回転中のファンに指や手や体を近づけないでください。ケガの原因となります。  ●アース工事は、電気設備技術基準にしたがって確実にこなしてください。アースが不完全ですと、感電の原因となります。
---	---

注意

<ul style="list-style-type: none"> ●電源電圧は、定格入力電圧の±6%以内で使用してください。ランプの短寿命、不点灯、チラツキ、安定器の故障、火災の原因となることがあります。 ●屋外では使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。 ●湿気や水気のあるところでは使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●引火する危険性の雰囲気（ガソリン、可燃性スプレー、シンナー、ラッカーなど）で使用しないでください。火災、爆発の原因となることがあります。 ●振動や衝撃のあるところでは使用しないでください。故障、落下によるケガ、火災の原因となることがあります。 ●腐食性雰囲気のところでは使用しないでください。故障、落下の原因となることがあります。
--	--

ご使用上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ●装置の取付工事は、必ず専門業者に依頼してください。 ●ランプは素手でさわらないでください。万一汚れた場合はアルコールを湿した布でよく拭きとってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●装置に適合したランプ、安定器を必ず使用してください。装置の過熱、発煙の原因となることがあります。 ●装置の性能を維持するために定期的に保護管の清掃や装置の点検をしてください。
--	---

空気殺菌灯器具を正しく安全にご使用いただくために

安全上の注意

警告



●点灯中のランプは絶対に直接又は間接に肉眼で見ないでください。眼の痛みや視力障害の原因となります。

●紫外線（殺菌線）を皮膚に直接又は間接にあてないでください。皮膚の炎症や日焼けをおこす原因となります。



●取付工事やランプ交換、清掃のときは、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。



●万一、煙がたり、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合はすぐに電源を切ってください。そのまま使用すると、感電、火災の原因となります。また、異常状態がおさまったことを確認してから工事店、電器店に修理を依頼してください。

●取付工事は、取扱説明書にしたがって確実にこなってください。感電、火災、ケガの原因となります。

●器具の取り付けは、器具の質量に耐えるところに取扱説明書にしたがって確実にこなしてください。取り付けに不備があると落下し、感電、ケガの原因となります。

●電源接続の際は、取扱説明書にしたがって確実にこなってください。接続が不完全ですと、感電、火災の原因となります。



●器具の分解、改造は絶対にしないでください。故障、落下、感電、火災の原因となります。



●オゾン発生ランプのオゾンは、人体に害がありますので、人がいるときはランプを点灯しないでください。呼吸器官の炎症を起こす原因となります。

●紙や布や断熱材などでおおったり、燃えやすいものに近づけないでください。故障、火災の原因となります。

●器具の隙間に金属類や燃えやすいものなどを差し込まないでください。感電、火災の原因となります。



●アース工事は、電気設備技術基準にしたがって確実にこなしてください。アースが不完全ですと、感電の原因となります。

注意

●取付工事は、必ず電気工事店に依頼してください。一般の方の工事は、法で禁じられています。素人工事をおこないますと、感電、火災の原因となることがあります。

●適合ランプ以外は使用しないでください。ランプ落下によるケガ、短寿命、不点灯、火災の原因となることがあります。

●電源電圧は、定格入力電圧の±6%以内で使用してください。ランプの短寿命、不点灯、チラツキ、安定器の故障、火災の原因となることがあります。

●屋外では使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。

●湿気や水気のあるところでは使用しないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。

●清掃の際は、器具に水や薬品がかからないように注意してください。故障、感電、火災の原因となることがあります。

●振動や衝撃のあるところでは使用しないでください。故障、落下によるケガ、火災の原因となることがあります。

●引火する危険性の雰囲気（ガソリン、可燃性スプレー、シンナー、ラッカーなど）で使用しないでください。火災、爆発の原因となることがあります。

●腐食性雰囲気のあるところでは使用しないでください。故障、落下の原因となることがあります。

●粉塵の多いところでは使用しないでください。火災の原因となることがあります。

●ランプの取り付け、取り外しは取扱説明書にしたがって確実にこなしてください。ランプの落下、火災の原因となることがあります。

●過度な荷重をかけないでください。故障、落下の原因となることがあります。

●器具の温度上昇は収納部の容積や器具と造営材との距離に影響されますので、放熱には十分注意して、器具と造営材との間隔をとってください。放熱が悪いと、故障、火災の原因となることがあります。

●器具の樹脂部分に塗料などを塗らないでください。樹脂部分が劣化し、故障、感電、火災の原因となることがあります。

●暖房機器、火気の上や近接したところでは使用しないでください。故障、火災の原因となることがあります。

●退色を避けたい場合には、使用しないでください。被照射物が紫外線により退色・劣化の原因となることがあります。

ご使用上の注意

●周囲温度は取扱説明書で指定した範囲で使用してください。ランプの短寿命、不点灯、チラツキ、安定器の故障の原因となることがあります。

●ランプ点灯、消灯後しばらくの間きしみ音が発生する場合がありますが異常ではありません。熱膨張率の異なる部材が温度変化により各部材の接触面で摩擦を生じるためであり、特に静かな環境を要求される場所へ取り付けの際は、ゴムやシリコン等の防振材を施すことにより、きしみ音を低減できる場合があります。

●植物のそばで使用しないでください。植物育成障害の原因となることがあります。

●清掃する際は、シンナーやベンジンなどの溶剤を使用しないでください。水または中性洗剤を湿らした柔らかい布でよく絞ってから拭いてください。

●器具を並列に取り付ける場合は、器具1台分の間隔以上離してください。ランプがチラツいたり、熱干渉によりランプ光束が落ちたり、安定器やランプの短寿命の原因となることがあります。